

議案第16号 ⑧	平成30年度五霞町国民健康保険特別会計補正予算（第3号） 歳入歳出それぞれ1,000万円を減額補正	
議案第17号 ⑧	平成30年度五霞町後期高齢者医療特別会計補正予算（第2号） 歳入歳出それぞれ341万3千円を追加補正	
議案第18号 ⑧	平成30年度五霞町介護保険事業特別会計補正予算（第3号） 歳入歳出それぞれ320万3千円を減額補正	
議案第19号 ⑧	平成30年度五霞町公共下水道事業特別会計補正予算（第2号） 歳入歳出それぞれ1億3,899万5千円を減額補正	
議案第20号 ⑧	平成30年度五霞町農業集落排水事業特別会計補正予算（第2号） 歳入歳出それぞれ7万6千円を追加補正	
議案第21号 ⑧	平成30年度五霞町水道事業会計補正予算（第2号） (収益的収入及び支出) 収入6千円の追加補正 支出6千円の追加補正 (資本的収入及び支出) 収入2,216万1千円の減額補正 支出1,977万円の減額補正	
発議第1号	五霞町議会予算特別委員会の設置	
陳情第1号 ⑧	「医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書」を国に提出 することを求める陳情書	採 択

⑧=総務文教委員会付託 ⑧=経済建設委員会付託

※議案第22号から議案第28号については、新年度の各会計別予算となります。

意見書を提出

定例会で採択された陳情について、地方自治法に基づき、意見書を内閣総理大臣等に提出しました。

(なお、文章は要約して掲載しています)

○医師養成定員を減らす政府方針の見直しを求める意見書

日本の医師数は、人口1,000人当りOECD平均3.3人に対し、2.4人と極めて少なく、週60時間以上働く割合は職種別で医師が最も高くなっています。特に救急や産科では週労働時間は平均80～90時間を超えており、全ての医師の長時間労働の改善、そのための医師不足の解消が求められています。

ところが、政府の「骨太方針2018」では、

2022年度以降の医学部定員減を検討する方向が打ち出されました。医師の養成定員を減らしてしまえば、医師の長時間労働改善の議論に逆行するだけではなく、救急・産科・小児科など、「地域医療崩壊の危機」を打開するため拡大された医師養成水準を引き下げることによって、再び、同様の危機を招きかねません。住民が安心して暮らせる救急医療や地域包括ケアシステム体制の充実が図られるよう、医師数を増やすことを求め、次の事項を強く要請する。

2022年度以降の医師養成定員減という方向を見直し、医療現場と地域の実態を踏まえ、医師数をOECD平均以上の水準に増やすこと。